

令和 8 年 3 月 2 日新年度予算記者会見

【市長あいさつ】

実施計画は、まちづくり推進計画に示された施策等の実現手段である主な事務事業を位置づけたもので、令和 8 年度から 10 年度までの 3 か年で「こども夢・チャレンジ No.1 都市」「健康・支え合い循環都市」「魅力・活力創造都市」の 3 つの都市ビジョンや基本施策の実現に向けて重点的に取り組む新規、充実事業などを明らかにする計画となっている。この計画に基づいて予算編成を進め、令和 8 年度当初予算（案）を作成した。なお、市長の交代があったが、令和 8 年度当初予算は通常予算として編成した。

歳入の根幹をなす市税は、個人所得の増加や納税義務者数の増などにより個人市民税を増収と見込んだことに加え、法人市民税についても主要法人の業績予測などを基に増収と見込んだことにより、市税収入は当初予算比較で増収となった。

一方、歳出面では、増加し続ける社会保障関連経費に加え、人件費や物価の上昇が、委託料を始め様々な経費の上昇圧力になっている。さらに、近年の制度改正や国の政策による支出の増加も、予算総額の増大を招いており、引き続き財源の確保に注力していかなければならない。

こうした難しい局面の中ではあるが、令和 8 年度の予算編成にあたっては、3 つの都市ビジョンの実現を目指して、今後 10 年先、20 年先を見据えた持続可能な市政運営となるよう編成を行ったところである。

その結果、令和 8 年度当初予算額は、一般会計は 726 億 8,000 万円 で対前年度比 3.3%増、特別会計と企業会計を合わせた全会計では 1,401 億 3,632 万円 で対前年度比 2.2%増となった。

重要施策については「令和 8 年度予算案の主な事業」の表をお配りしている。新年度予算の新規事業を中心に、主な事業を分かりやすく説明するために作成したものであり、まちづくりの機軸となる 3 つの都市ビジョンに、行政改革と市民の利便性向上を加えた 4 つの柱に沿って整理している。今後も関係各位の格別のご理解とご協力を心からお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。

【説明要旨】

■令和 8～10 年度実施計画について

第 1 章 実施計画の概要

本計画は「小牧市まちづくり推進計画第 2 次基本計画」で示した施策を推進する

ためのアクションプランとして、令和8年度から10年度までの3か年計画として策定しているが、社会情勢の変化に適切に対応するため、ローリング方式により毎年度策定することとしている。

策定に当たっては、限られた財源の中で現状を打開できる新規事業及び、市民ニーズや社会情勢に的確に対応する既存事業を厳選するとともに、「所要一般財源の精査」「小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画の推進」「協働の推進」「『やめること』も含めた業務の抜本的な見直し」「効果的なプロモーションの実施」「積極的な財源の確保」を基本とし策定した。

第2章 市政の動向

基本方針に沿って事業を厳選した結果、実施計画の事業費は3年総額339億9,159万円余、そのうち一般財源は223億654万円余となった。

第3章 まちづくり推進計画の体系と都市ヴィジョン

まちづくり推進計画の施策の体系図を示している。第2部 市政戦略編以降は、この体系に沿って構成している。

第4章 実施計画事業一覧

まちづくり推進計画の「市政戦略編」の戦略別、「分野別計画編」及び「自治体経営編」の基本施策別に、97事業を掲載している。

市政戦略編の戦略1に紐づく重点事業は「SDGs 未来都市推進事業」から「学校再編推進事業」までの16事業で、83億1,368万円余となり、そのうち充実が4事業である。

戦略2に紐づく重点事業は「健康増進施設運営事業」から「こまきプレミアム商品券発行助成事業」までの7事業で、8億9,755万円余となり、そのうち充実が2事業である。

戦略3に紐づく重点事業は「都市ブランド戦略推進事業」から「次世代産業推進事業」までの10事業で、14億5,595万円余となり、そのうち充実が2事業である。

分野別計画編では「1. 安全・環境」から「6. 都市基盤・交通」までの6分野の合計56事業で226億2,409万円余となり、そのうち新規が4事業、充実が9事業である。

自治体経営編の事業費は、8事業で7億31万円となり、そのうち新規が3事業である。

■令和8年度当初予算の概要について

令和8年度当初予算会計別総括表

一般会計当初予算額は対前年度比3.3%、23億2,400万円増の726億8,000万円となった。

特別会計では、8会計の総額が287億6,300万円余で、対前年度比1.8%の増となっている。会計別では、介護保険事業で保険給付費が増額したことなどによる4億5,377万円余の増額、後期高齢者医療で後期高齢者医療広域連合納付金が増額したことによる4億1,993万円余の増額となっている。

企業会計では、病院・水道・下水道の3会計の総額が386億9,331万円余で対前年度比0.4%の増となっている。これは、主に病院事業の収益的支出で、医業費用の材料費のうち診療材料費が増額となったことなどによるもの。

全会計の合計は1,401億3,632万円、対前年度比2.2%の増となった。

令和8年度一般会計当初予算の概要

歳入の根幹をなす市税について、個人市民税は個人所得の増加と納税義務者の増加により増額と見込み、法人市民税も多くの企業の業績が堅調に推移したことなどから増額と見込んだ。また、固定資産税は新增築家屋の動向から増収と見込んだことなどにより、市税全体では対前年度比5.3%増の358億402万円となった。

投資的経費は、対前年度比13.6%増の95億1,427万円余となっているが、これは（仮称）第一こども園施設建設事業が5億1,845万円余の増となったことなどによるもの。

人件費は、人事院勧告に準ずる給与改定などにより、対前年度比5.8%増となっている。

令和8年度一般会計当初予算款別表

歳入については説明を省略し、歳出について、増額の大きい科目から順に説明させていただく。

3款 民生費が対前年度比7.5%、22億5,694万円余の増となっており、これは教育・保育事業で8億7,861万円余の増となったことなどによるもの。

10款 教育費が対前年度比8.2%、8億6,093万円余の増となっており、これは市民会館施設整備事業で4億8,588万円余の増となったことなどによるもの。

6款 農林費が対前年度比95.2%、4億1,673万円余の増となっており、これは農業公園整備事業で4億1,235万円余の増となったことなどによるもの。

4 款 衛生費が対前年度比 3.9%、2 億 5,675 万円余の増となっており、これは小牧岩倉衛生組合負担金で 2 億 1,960 万円余の増となったことなどによるもの。

減額の大きい科目について、9 款 消防費が対前年度比 31.5%、9 億 4,796 万円余の減となっており、これは消防指令センター共同運用事業で 85.8%、9 億 13 万円余の減となったことなどによるもの。

構成比は民生費が 44.6%、教育費が 15.5%、土木費が 10.9%となり、民生費が平成 16 年度以降 23 年連続で最大となっている。

歳出の性質別分類表

義務的経費は対前年度比 4.6%の増となっており、これは扶助費で、教育・保育事業の教育・保育施設型給付費が 3 億 4,115 万円余の増、地域型保育給付費が 2 億 6,089 万円余の増、保育施設型給付費が 2 億 2,249 万円余の増となったこと、および人件費が 6 億 5,697 万円余の増となったことなどによる。

投資的経費は、前出のとおり対前年度比 13.6%の増となっている。

その他の経費のうち投資及び出資金・貸付金が対前年度比 11.8%の増となっているが、これは水道事業会計繰出金が 8,379 万円の増となったことなどによるもの。

補助費等は対前年度比 3.2%の減となっているが、これは保育所整備費補助金が皆減となったことなどによるもの。

令和 8 年度の主要事業の概要

個別の事業を小牧市まちづくり推進計画の施策の体系に沿って、主なものを市政戦略編から順番に説明させていただく。

市政戦略編 戦略 1 すべてのこどもたちが夢を育みチャレンジできる環境を創出

- 「こども夢・チャレンジ推進事業」のうち「夢にチャレンジ助成金支給事業」では、自分の夢を実現するための計画を募集し、チャレンジしたい内容をプレゼンしてもらい、優秀者に助成金を支給してきたが、対象者を従来の高校生以上から中学生以上に拡大し支援する。
- 「こども夢・チャレンジ推進事業」として、学習意欲があっても家庭環境等により学力の定着が進んでいない中学生を対象として実施している学習支援事業「駒来塾」、高校生等が身近な課題や関心事について、自らプロジェクトを立ち上げ、課題解決を目指した取組を発表することで、意見表明や社会参画を通して地域や社会に主体的に関わる意識を育む高校生等社会参画事業などを継続

して実施する。

- 「保育料無償化拡充事業」では、令和元年 10 月より無償化の対象となっている 3 歳児から 5 歳児に加え、本市独自の少子化対策の拡充として、所得や出生順位に関わらず、0 歳児から 2 歳児までの園児の保育料の無償化を引き続き実施する。
- 「給食費負担軽減事業」では、小学校の給食費について、国・県から無償化相当分として交付される交付金基準額に不足する食材費高騰分などを市で補完することで完全無償化とする。中学校の給食費については、市独自の多子世帯の子育て支援施策として第 2 子以降中学生の無償化を継続する。令和 8 年度は、国の物価高騰対策に係る交付金の活用により第 1 子中学生の無償化を実施することで、中学生についても完全無償化とします。
- 「子育て世代包括支援センター運営事業」のうち「すくすく子育て応援事業」は、妊娠から出産、子育てまで切れ目なく支援をすることを目的とした、国の「妊婦のための支援給付」を実施するもので、経済的支援として妊娠届出後と出産後に各 5 万円の「たまごギフト」「ひよこギフト」を贈るもの。現在現金給付のみであるものを、令和 8 年度からは電子ギフトも選べるようにする。
- 「米野小学校改築事業」は、令和 7 年度に入札・契約予定であったが、入札参加申し出がなく、改めて令和 8 年度から令和 11 年度までの継続費を設定して工事を進め、令和 10 年度の校舎と体育館の供用開始を目指す。
- 「学校再編推進事業」では、令和 6 年度に策定した「小牧市新たな学校づくり推進計画」に基づき、子供たちにとってより望ましい教育環境の実現を目指して、篠岡地区・巾下地区・北里地区における小中学校の学校再編を進めるものです。篠岡地区においては、備品の整備や、校名・校章の変更に伴う学校施設の修繕を行うとともに、スクールバス運行にかかる費用等を計上している。

市政戦略編 戦略 2 “健康・生きがいづくり”と“支え合いの地域づくり”の循環により、自分らしくいきいきと安心して暮らすことができる「活力ある高齢社会（小牧モデル）」を構築

- 「健康増進施設運営事業」について、先日開館 1 周年を迎えた「ヘルスラボ・こまき」は、健康づくりとフレイル予防を推進する拠点として、子どもからお年寄りまで、それぞれのライフステージにあった健康づくりの取組を広める。
- 「地域協議会設立推進・活動支援事業」は、地域づくりを補完する新しいコミュニティ組織を小学校区単位で設立し、安心して暮らし続けられる地域づくり

を目指すもの。令和 8 年度は活動周知と新たな参加者の発掘を目指し、無作為抽出した地域住民を対象にした地域ミーティングを開催する。

- 「支え合いいきいきポイント推進事業」では、市が指定する介護施設に加え、障害者支援施設等でのイベントや清掃などの補助的なお手伝いにもポイントを付与することで、支え合い・助け合い活動を促進する。
- 市民生活の支援と地域経済の活性化のために商工会議所が実施する「こまきプレミアム商品券発行事業」については、燃料価格や物価の高騰対策のため、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、プレミアム率を 20%として、発行総額 14 億 4,000 万円分に対する補助を実施する。令和 8 年度は一部電子版の導入に向け取り組む。

市政戦略編 戦略 3 「住みたい」「働きたい」「訪れたい」魅力あふれる小牧を創造

- 「中心市街地活性化事業」では、中心市街地の活性化を目的に集い・出会った人々が、自ら企画を立ててチャレンジしながら街を元気にしていくプロジェクトである「コマナカ meet」を実施し、市民等と連携・協働しながら中心市街地の活性化を図る。
- 「史跡小牧山整備事業」では、山の中腹付近の大手道の発掘調査の成果を基に、史跡整備に向けた基本計画を策定するとともに、青年の家解体・撤去後の周辺整備に向けた基本設計や、山頂の照明灯の更新を行う。
- 「企業新展開支援プログラム推進事業」と「企業立地推進事業」は、社内の生産性向上に向けたデジタル技術の導入・活用にかかる費用に対する補助などを継続するとともに、展示会等への出展にかかる費用に対する補助の対象を拡大するほか、自社のサイバーセキュリティ対策に対する補助を新設する。また、市内企業の DX 推進による生産性向上に寄与する IT・スタートアップ企業がオフィス等を開設する際の補助を新設する。

分野別計画編 第 1 章 安全・環境

- 「災害用備蓄品整備事業」では、現在国から達成が求められている「スフィア基準」や近年の避難所の実態もふまえて、環境改善、食糧備蓄量の拡充を実施する。
- 「消防同意等 DX 化事業」は、火災予防の手続き全般について、電子申請ができる環境を整備し、申請者の利便性の向上、消防事務の効率化を図る。

- 「カーボンニュートラル推進事業」であります。市民の再生可能エネルギーの導入 促進として実施している住宅用地球温暖化対策設備設置費補助金について、より高効率の住宅に対する補助を新設する。
- 「公共施設照明設備LED化事業」では、小中学校14校、まなび創造館の一部、フィットネススタジオやあさひホール、市役所本庁舎の照明設備をLED照明に更新することで、温室効果ガスの排出量の削減を図る。

分野別計画編 第2章 健康・福祉

- 「ヤング健診事業」では、近年若年層の生活習慣病や若い女性の痩せによる健康リスクが高まっていることから、健診の対象年齢を引き下げ、若者が健診を受診できる機会を広く拡充する。
- 「5歳児健康診査事業」では、社会性の発達の確認や、就学に向けた準備、特性に合わせた相談につなげることを目的として実施している5歳児健診に県内初の口腔機能発達健診を加え、こどもの健やかな育ちを支援する。

分野別計画編 第3章 教育・子育て

- 「マイボトル給水機設置事業」では、近年、長期化する酷暑期において児童生徒の熱中症を予防するため、小中学校にマイボトル給水機を設置する。
- 「いじめ・不登校対策事業」では、オンラインを活用した居場所づくりを実施し、いわゆるメタバースによる学習や体験を通して、人とのかかわりやコミュニケーションに慣れることを目指す。
- 「児童クラブ運営委託事業」について、現在大城児童クラブにおいて委託による事業運営を導入しているが、クラブの質の向上や安定した運営のため、令和9年度より篠岡地区の2児童クラブへ委託を拡大する準備を進める。
- 「養育費確保支援助成金支給事業」では、養育費の未払いを防ぎ、ひとり親家庭の安定した生活とこどもの健やかな成長のため、養育費に関する公正証書の作成費用等の一部を助成してきたが、弁護士相談料も対象費用に含めるよう拡大する。
- 「保育園適正配置・整備推進事業」では、第二保育園園舎の改築を行うほか、山北保育園の送迎用駐車場の整備や山北保育園・さくら保育園の改築に向けた設計、レイモンド小牧保育園の改築に向けた不動産鑑定評価などを行う。
- 「(仮称)第一こども園施設建設事業」につきましては、昨年からの建築工事に着手しており、令和9年4月の開園を目指して、引き続き建築工事を進める。

分野別計画編 第4章 文化・スポーツ

- 「第20回アジア競技大会開催事業」では、令和8年度開催のアジア競技大会において、小牧市スポーツ公園総合体育館がバレーボールの会場のひとつとなるため、実施競技の円滑な開催や運営を支援する。

分野別計画編 第5章 産業・交流

- 「農業公園整備事業」では、「食育と環境～農と里山の恵み・ふれあい～」を基本理念とした農業公園の供用開始に向け、市民菜園や体験農園などの整備に加え、管理棟の建築工事などを進める。

分野別計画編 第6章 都市基盤・交通

- 「地域公共交通確保維持改善事業」では、将来にわたり「こまくる」をはじめとした地域公共交通サービスの持続的な提供を確保するため、地域の実情に応じた最適な公共交通のあり方について検討する。
- 「路面下空洞調査事業」では、市指定緊急輸送路線（犬公線、北外山文津線、桃花台鳥居松線）を車で走行しながらレーダーを照射して解析することで、目視できない路面下の状況を確認する。
- 「街路樹最適化事業」では、歩行者等の安全を確保するとともに良好な街並み景観を形成するため、市道犬山公園小牧線において、計画的に樹木の植え替えを行う。
- 「民間木造住宅耐震改修促進事業」では、国の補助制度の見直しや近年の建築資材・人件費の高騰を踏まえ、従来の補助金の限度額を引き上げるとともに、段階的な耐震改修工事や、精密な耐震補強設計に対する補助制度を創設する。

自治体経営編

- 「小牧市まちづくり推進計画策定事業」では、市の最上位計画である「小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画」を見直し、次期計画の策定を進める。
- 「ファシリティマネジメント推進事業」では、公共施設の効果的で効率的な維持管理・運営を推進するため、策定から約10年が経過する現在の「小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針」と「小牧市公共施設適正配置計画」「小牧市公共施設長寿命化計画」について、各施設の最新の計画などを踏まえた改定を行う。

なお、8つの特別会計と病院、水道、下水道の3つの企業会計の事業は、実施する内容が例年と大きく変わるものではないため、説明を省略させていただく。